

ふつ こう き ねん てん  
復興祈念展

—人びとのいとなみの継承—  
けいしょう

〈 前 期 展 〉

展 示 解 説 資 料



南沢遺跡 縄文土器

福島県文化財センター-白河館

2025

# 目 次

## 中間貯蔵施設建設地内の遺跡

双葉町 銅谷迫遺跡	1
双葉町 後迫 B 遺跡	1
大熊町 梨木平遺跡	1
双葉町 郡山貝塚	2
双葉町 沼ノ沢古墳群 3 号墳	2
双葉町 郡山五番遺跡	3
双葉町 陳場沢窯跡群	3
大熊町 南沢遺跡	3
大熊町 北台遺跡	3
大熊町 女迫遺跡	4

## 県道広野小高線の遺跡

檜葉町 南代遺跡	4
----------	---

# 中間貯蔵施設建設地内の遺跡

## 銅谷迫遺跡 (2018・2019年発掘調査)

本遺跡は、双葉町大字郡山字銅谷迫の丘陵平坦面に位置する飛鳥・奈良・平安時代の集落跡です。主な遺構は竪穴住居跡 43 軒、掘立柱建物跡 13 棟、方形区画溝などです。

本遺跡は郡山五番遺跡 ( 詳細別項 ) の近くにあり、同時期に営まれていることから関連がうかがわれます。

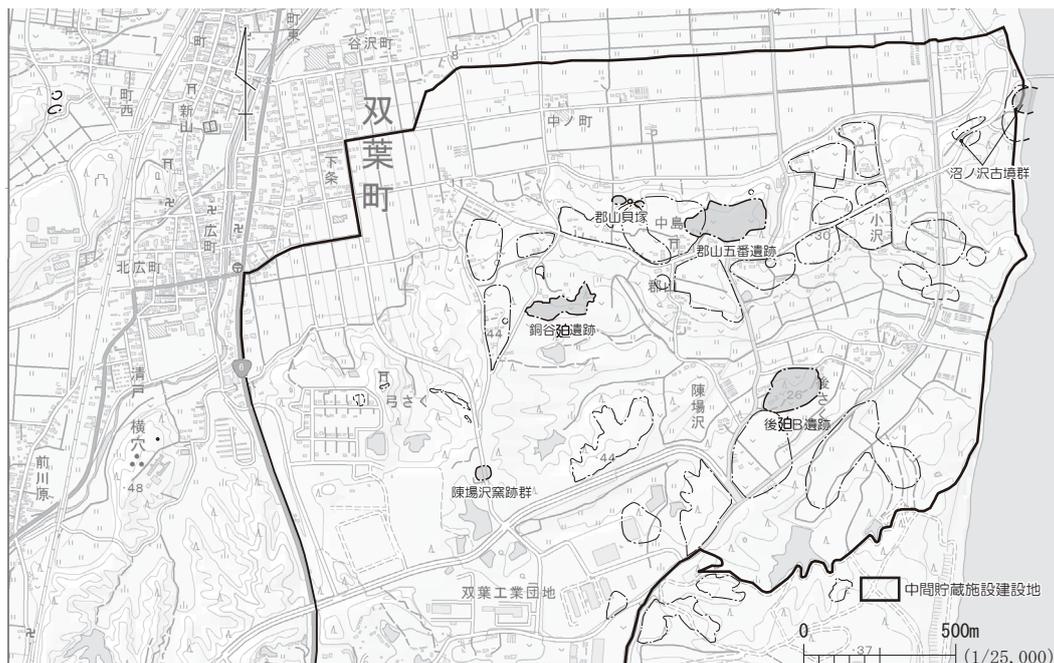
## 後迫B遺跡 (2019・2020年発掘調査)

本遺跡は、双葉町大字郡山字後迫の丘陵平坦面及び斜面に位置する弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安時代の集落跡と江戸時代の墓地です。主な遺構は竪穴住居跡 54 軒、土坑 51 基、遺物包含層 2 か所、墓跡 4 基などです。

出土遺物で最も注目されるのは、弥生時代中期後葉の石剣・石戈です。金属利器を石で模倣したもので、東北地方での出土例はきわめて稀です。次に注目されるのは、江戸時代の墓から出土した銅製の錫杖頭です。錫杖頭とは僧侶や修験者が持ち歩く錫杖の頭部のことです。さらに、近現代の遺物に盃・銚子・湯飲み・牛乳瓶があります。銚子・湯飲みには旧町名の新山町が記されています。銚子は東日本大震災前まで営業していた富沢酒造店が頒布したものです。盃は 1940 年に開催が予定されていた東京オリンピックを記念して製造されたものですが、日中戦争の勃発により日本政府が開催権を返上したため、オリンピックは開催されませんでした。牛乳瓶は、かつて浪江町にあった双葉乳業株式会社が製造・販売していたものです。

## 梨木平遺跡 (2017年工事立会)

本遺跡は、大熊町大字小入野字東平の小入野川沿いの河岸段丘に位置する奈良時代の集落跡です。遺構は竪穴住居跡 2 軒、土坑 11 基がみつかりました。



【平成 31・令和元年度中間貯蔵土壌貯蔵施設等工事予定地における埋蔵文化財調査業務 業務報告書】所収の図を基に作成

図 1 中間貯蔵施設建設地内の遺跡 ( 双葉町 )

土坑は、その堆積土下部に木炭が多く含まれることから、木炭焼成土坑と考えられます。住居跡からは羽口・鉄滓などが出土していることから、製鉄に関連する集落跡とみられます。

こおりやまかいづか

### 郡山貝塚 (1986・1987年発掘調査)

本貝塚は、双葉町大字郡山字塚ノ腰の丘陵斜面に位置し、その範囲はA・B・C地点に分かれています。時期は縄文時代前期前葉です。

出土遺物の多くは自然遺物で、貝殻・魚骨・獣骨などがあります。貝殻の種類はイボキサゴ・スガイ・アサリ・イソシジミ・コシダカガンガラ・ヤマトシジミ・マテガイ・ハマグリで約90%を占めます。魚骨の種類はマアジが約50%を占め、次に多いのがマイワシ・カタクチイワシなどです。

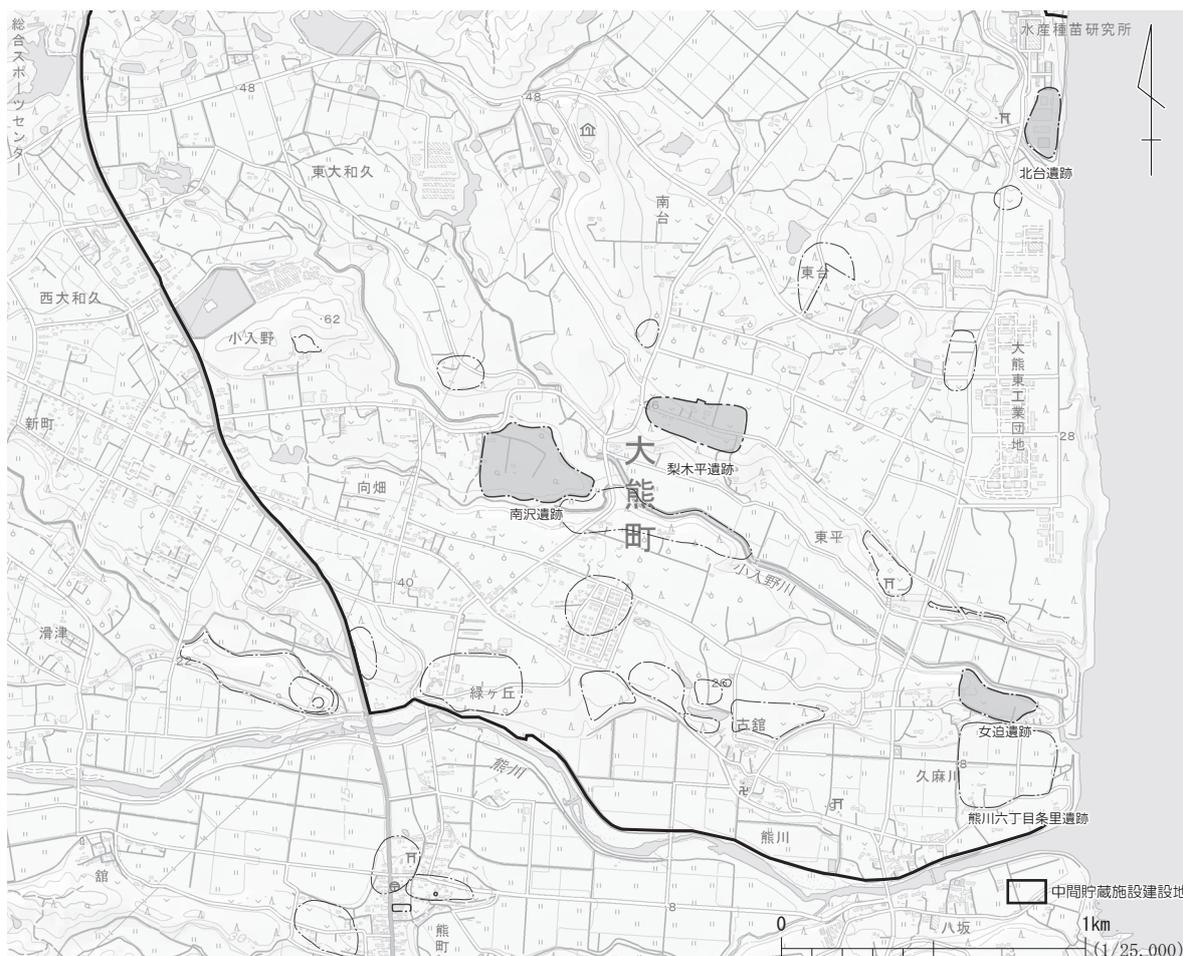
その他には、鹿角製釣針・刺突具、珧状耳飾、ヒスイ製やサメの歯製の装身具などがあります。

ぬまのさわ

### 沼ノ沢古墳群3号墳 (1981年発掘調査)

沼ノ沢古墳群古墳は、双葉町大字郡山字沼ノ沢の太平洋に面した丘陵端部に位置します。丘陵端部は海蝕が著しく断崖となっており、本古墳群のうち6基が消失しています。

3号墳は飛鳥時代の円墳で、墳丘の規模は径14mです。埋葬施設は全長5.7mの横穴式石室で、羨道と玄室によって構成されます。副葬品には、金銅製の耳環、青銅製の釧、勾玉・管玉・棗玉・切子玉・丸玉・小玉などがあります。



『平成31・令和元年度中間貯蔵土壌貯蔵施設等工事予定地における埋蔵文化財調査業務 業務報告書』所収の図を基に作成

図2 中間貯蔵施設建設地内の遺跡 (大熊町)

こおりやまごばん

## 郡山五番遺跡 (1977~1979年・2003年発掘調査)

本遺跡は双葉町大字郡山字五番の丘陵に位置する飛鳥・奈良・平安時代の陸奥国標葉郡(評)衙の比定地です。主な遺構は竪穴住居跡 25 軒、掘立柱建物跡 14 棟などです。出土遺物で多いのは瓦で、軒丸瓦・軒平瓦・平瓦・丸瓦などがあります。この中の細弁蓮華文軒丸瓦と鈎針文軒平瓦は、南相馬市泉官衙遺跡からも同範のものが出土しています。泉官衙遺跡は陸奥国行方郡衙に比定されているため、郡衙間との交流がうかがわれる事例です。

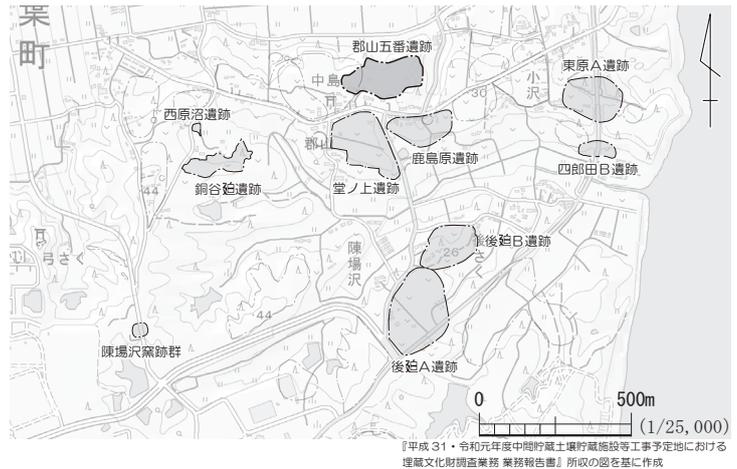


図3 郡山五番遺跡とその関連遺跡

本遺跡と関連する遺跡としては堂ノ上遺跡があり、郡寺に比定されています。当初は、郡山五番遺跡堂ノ上地区とされていましたが、その後、堂ノ上遺跡として登録されました。それ以外にも、本遺跡の周辺には同時期に営まれた遺跡があり、関連がうかがわれます。(図3)。

じんばさわ

## 陳場沢窯跡群 (1991年発掘調査)

本窯跡群は、双葉町大字郡山字陳場沢の丘陵に位置し、町道によって遺構の大部分が削平されています。本窯跡群は南北方向に4基並列で構築され、1号窯跡は焚口部と前庭部が、2~4号窯跡は前庭部のみが残っていました。

本窯跡群では、須恵器杯・蓋・盤・高杯・甕、円面硯、鷓尾などが焼かれていました。鷓尾は、瓦葺屋根の大棟の両端につけられた飾りで、堂ノ上遺跡に供給され寺院建築に用いられたと考えられています。時期は飛鳥時代とされています。

みなみざわ

## 南沢遺跡 (1983年確認調査)

本遺跡は大熊町大字小入野字向畑の小入野川沿いの河岸段丘に位置し、造成工事により壊滅状態になったため、確認調査が実施されました。

時期は縄文時代前期~後期で、竪穴住居跡の一部が確認されています。出土遺物は縄文土器・土製品・石器などがみつかっています。縄文土器には後期の無頸壺や注口土器などがあります。

きただい

## 北台遺跡 (調査歴なし)

本遺跡は大熊町大字夫沢字北台の太平洋沿岸の海岸平野に位置し、旧福島県水産種苗研究所の敷地内にあります。表採された遺物は、旧石器・縄文・弥生時代の石器・石製品などがあります。この中で注目されるのは弥生時代の完形品の石庖丁です。石庖丁は稲の穂摘み具と考えられており、東北地方南部の弥生時代の稲作を考える上で貴重な資料といえます。

おなさく

## 女迫遺跡 (1979年発掘調査)

本遺跡は、大熊町大字熊川字久麻川の久麻川沿いの河岸段丘に位置します。当初は、熊川六丁

目条里遺跡女迫地区とされていましたが、その後、女迫遺跡として登録されました。

調査では、古墳時代前期の竪穴住居跡1軒がみつき、土師器壺・椀・甕・台付甕、河原石が出土しました。東北南部では平底の甕が多く、台付甕は少ないので、貴重な事例です。なお、河原石については、紐ですれたような痕跡がみられることから、編物石や置き網に用いられた石おもりと推定されています。

## 県道広野小高線の遺跡

### 南代遺跡 (2014～2016年発掘調査)

本遺跡は、檜葉町大字下繁岡字南代の井出川沿いの河岸段丘に位置する弥生時代中期の集落跡と奈良時代の製鉄跡です。主な遺構は、竪穴住居跡1軒、竪穴状遺構1基、製鉄遺構12基、木炭窯跡6基などです。

製鉄遺構は長方形箱形炉1基と竪形炉11基で、木炭窯跡は全て地下式です。長方形箱形炉の操業を停止する際に、鉄刀を置いた後に鉄滓を捨てるという他ではみられない行為をしています。

双葉郡内では製鉄遺構の調査例が少ないので、貴重な事例です。

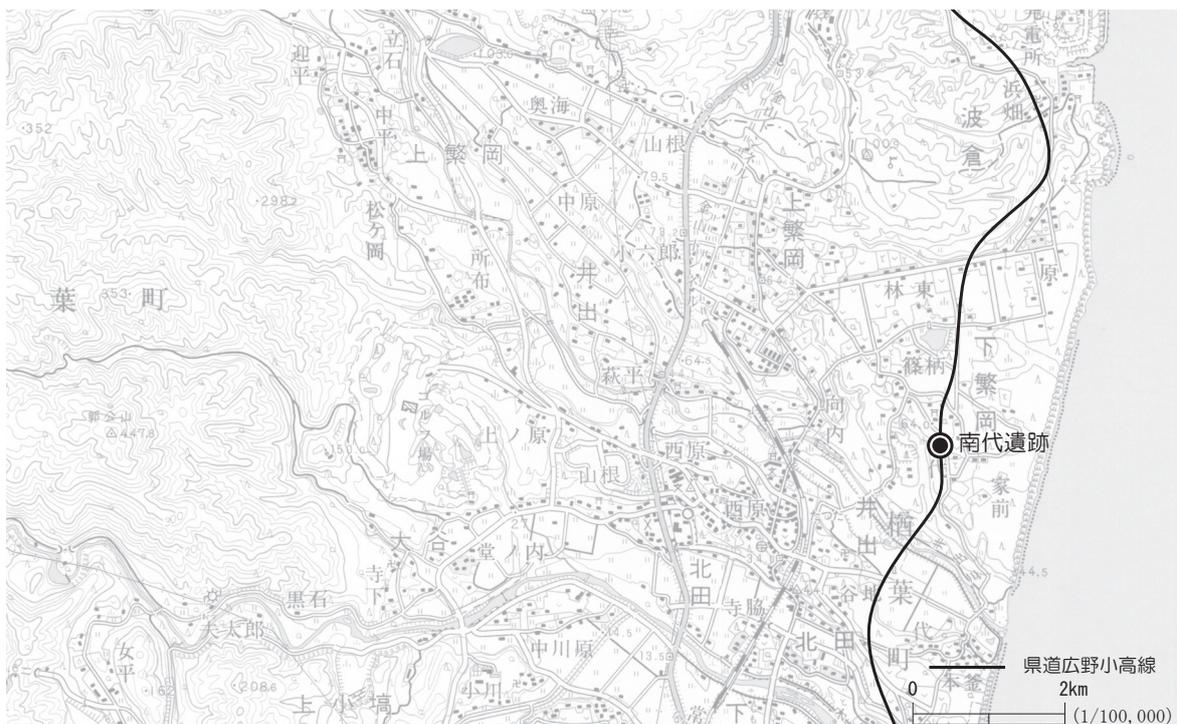


図4 道広野小高線路線図 (檜葉町)